

教科名 **数学** 科

### 1 授業改善の視点とその方策

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な問題演習の時間や生徒一人一人の思考力、判断力、表現力を養うために、生徒の学習状況に応じた課題を解く時間を授業で設定していく。</li> <li>○既習事項や解答までの途中経過や生徒の考え方を確認しながら授業を実践していく。</li> <li>○既習事項の復習として、ワーク、プリント等を使用して、家庭学習の習慣化を図っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な問題演習の時間や生徒一人一人の思考力、判断力、表現力を養う問題を解く時間を授業で、できる限り設定していく。</li> <li>○既習事項や解答までの途中経過や生徒の考え方を確認、発表をさせながら授業を実践していく。</li> <li>○既習事項の復習として、ワーク、プリント等を使用して、家庭学習の習慣化を図っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な問題、生徒の学習状況に応じた問題に取り組む時間を設定していく。</li> <li>○既習事項や解答までの流れを確認しながら授業を行っていく。</li> <li>○知識を活用する機会を多くし、用語の定着を徹底する。</li> <li>○数学的な思考力・判断力・表現力を養い、活用する力を身に付けるために、必要に応じて応用問題や文章問題等に取り組ませる。</li> </ul>

### 2 生徒の変容の状況および成果

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎回の小テストの実施により基礎・基本は定着してきている。</li> <li>○内容ごとに問題演習のプリントに取り組むことで、基礎的・基本的な内容が定着してきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○数多く基礎から応用までの問題演習させることにより、筋道を立てて問題を解いたり、発表することができる生徒が少しずつ増えてきた。</li> <li>○内容ごとに問題演習のプリントに取り組むことで、基礎的・基本的な内容が定着してきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○既習事項や解答までの流れを確認したあとに取り組ませたり、周りと話し合う時間を設定したことにより、自分の力で解こうとする生徒が増えた。</li> <li>○内容ごとに問題演習のプリントに取り組むことで、基礎的内容が定着してきている。</li> </ul>

### 3 次年度に向けての課題

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> <li>○習熟度に応じた課題設定を行うことで、生徒一人一人の学力向上を図る。</li> <li>○家庭学習の習慣化を図る。</li> <li>○自分の力で解く時間とグループでの話し合いで考える時間を適切に設定し、主体的対話的な学びを充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的内容が定着するよう、問題演習の時間をできる限り設定する。</li> <li>○習熟度に応じた課題設定を行うことで、生徒一人一人の学力向上を図る。</li> <li>○家庭学習の習慣化を図る。</li> <li>○グループ学習の時間を設定し主体的対話的な学びを充実させ学力向上につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的内容が定着するよう、問題演習の時間を多めに設定する。</li> <li>○家庭学習の習慣化・充実を図る。</li> <li>○自分の力で解く時間と周りと話し合う時間を適切に設定し、主体的対話的な学びを充実させる。</li> </ul>